様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 3 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007～2009
課題番号：１９７３０２４５
研究課題名（和文）　イスラーム諸国における財閥の形成・発展過程に関する一考察

研究課題名（英文）　The Formation and development of Business Groups in Islamic countries

研究代表者
川満　直樹（KAWAMITSU NAOKI）
同志社大学・商学部・専任講師
研究者番号：１０３４０８４５

研究成果の概要（和文）：
本研究の主な成果は、パキスタンおよびドバイに存在する個々の財閥（特に本研究では、パキスタンではハビーブ財閥とアダムジー財閥、ドバイではアルフテイム財閥）の形成・発展過程についての特徴を明らかにしたことである。
具体的には、①ファミリー（財閥一族、以下ファミリーとする）による企業経営の支配構造（ファミリービジネス)。パキスタンおよびドバイに存在する財閥はある特定のファミリーが中心となり傘下企業の経営が行われており、ほとんどの傘下企業にファミリーが何らかの形（株主、役員）で関与していること。
次に、②ファミリー内における後継者の育成について。パキスタンおよびドバイに存在する財閥の多くが商業（貿易）を生業としてきたファミリーが多く、一昔前まではファミリー内あるいはコミュニティ内で教育を行っていた。しかし、現在ではアメリカやヨーロッパなどの高等教育機関で教育を受けさせている。ファミリービジネスに必要となるファミリーの人材育成を内部で行っていたものを外部で行うようになっている。

研究成果の概要（英文）：
The results of the present study were to clarify the following points:
The feature of the formation and the developing process of an existing individual Business Groups (Zaibatsu) were clarified to Pakistan and Dubai (UAE). Specifically, it is about Al-Futtaim Group in Dubai (UAE), and Habib Group in Pakistan. I concretely clarified the following respect. First, the companies are family ruled and control structure associated companies.
As for the Business Groups that exists in Pakistan and Dubai, a certain specific family member is centered and where management decisions were made. And, the family is related to most control associated companies as major Stockholders and Directors.
Secondly, it's about the successor's promotion in the family. Through generations, families who became Business Group in Pakistan and Dubai have been involved in the trade business for years. They have educated children among the family and within the community.
Now, their Children attend higher education throughout Universities in the United States and throughout Europe. They focus their studies in Economics and Business Administration.
The professional training among needed clans is not achieved within the Family Business but through education from Western Universities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1,200,000	0	1,200,000
２００８年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２００９年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	600,000	3,800,000

研究分野：経営史
科研費の分科・細目：経済史
キーワード：パキスタン、ドバイ、パキスタン経営史、パキスタン財閥、ドバイ財閥、イスラーム企業家、財閥、ビジネスグループ

１．研究開始当初の背景

近年日本でもイスラームという言葉をよく耳にするようになった。しかし、われわれ日本に住んでいる者はイスラームやイスラーム教徒（ムスリム）についてどれほどの情報および知識を持っているのだろうか。戦後、日本はパキスタンから綿花を輸入し、また現在中東からは石油を輸入している。言い過ぎかもしれないが、それら輸入品によって日本は経済発展を遂げ、現在に至っている。

最近、日本でもイスラームに関する研究が叫ばれ、多くの研究成果が発表されてきた。例えば、それらの研究は宗教としてのイスラーム、そして文化、歴史、民族、経済などの成果が中心である。また、近年では、中東の産油国のオイルマネーを取り込むことを狙い、イスラーム金融などの研究がなされてきている。

以上のように、これまでの研究では、イスラームの企業研究はほとんど取り上げられてこなかった。

本研究は、これまで等閑視されてきたイスラーム諸国に存在する企業を取り上げ、それら企業のケースタディにより、イスラーム諸国の企業の特徴の解明を試みるものである。その際、本研究ではそれらの地域で活躍する財閥を取り上げる。

その理由は、二点ある。一点目は、イスラーム諸国の多くは、いわゆる発展途上国に属している。それらの諸国では、ファミリービジネスが巨大化し財閥を形成している場合が多々あり、財閥の多くがそれら諸国の基幹産業に進出し影響力が大であること。二点目は資料収集などの技術的な問題である。

２．研究の目的

本研究は、日本はもとより諸外国においても特異なものと思われる。実際に、近年、諸外国においてもイスラーム経済やイスラーム金融などに関する研究はかなりされ、それなりに研究の蓄積も存在する。しかし、イスラーム諸国に存在する企業についての研究（財閥研究も含む）は等閑視されてきた。本研究は、そのような隙間（イスラーム系財閥研究）を埋めるものである。

以上のことをふまえ、本研究の目的は、イスラーム諸国で活躍する財閥の形成・発展過程を、経営史的に分析を試み、イスラーム諸国に存在する財閥の形成・発展過程、企業経営などの特徴を明らかにすることである。また、それに加えて、財閥の国際比較を試みたい。

例えば、イスラーム諸国（裕福な国と途上にある国、本研究ではパキスタンとドバイ首長国（アラブ首長国連邦（UAE）の一首長国、以下ドバイとする））における財閥の形成・発展過程の比較、イスラーム諸国の財閥と他地域（欧米や日本など）のそれとの比較などである。

本研究の成果は、今後のイスラーム諸国の財閥・企業研究およびイスラーム経済研究の

有益な共有財産となり得るだろう。

３．研究の方法

本研究の最大の目的であり、最大の特徴は、これまで等閑視されてきたイスラーム諸国で活躍する財閥に焦点をあて、彼らの形成過程ならびに発展過程を個別に取り上げ経営史的に分析することである。

本研究の性格上、財閥の資（史）料収集およびデータ等の作成は不可欠である。なぜなら、今後のイスラーム諸国の財閥研究のために有益な財産になると考えるからである。

以上のことをふまえ、また上記 2.「研究の目的」で記したことを達成するために、毎年度ほぼ同様に以下の方法で研究を進めてきた。

4 月～7 月：長期休暇を利用してのフィールドワークに必要となる基礎的なデータの作成および資料を収集した。

8 月～9 月：4 月～7 月に収集した資料および作成したデータをもとに、現地でのフィールドワークを実施した。

今回の研究では、イスラーム諸国で活躍する財閥の国際比較のための資料を収集するために主にドバイでの調査を実施した。

10 月以降：4 月～7 月に得た資料および作成したデータ、また現地でのフィールドワークで得た資料の整理および分析を行った。そして関係学会での発表および論文の執筆を行った。

４．研究成果

本研究の研究成果は以下のとおりである。

パキスタンについては、この 3 年間に財閥関連の資（史）料および財閥傘下企業が毎年発行する Annual Report などの資料収集を積極的に行った。特に Annual Report の収集は財閥傘下企業の動向を知る上で有益であり、またファミリーと傘下企業との関係を知る上でも貴重な資料となる。今回は「ダーウッド・ハビーブ・グループ（ハビーブ財閥のサブグループ）」と「アダムジー財閥」の二つの財閥について詳しく分析を行った。具体的には、経営権および所有権の継承などの問題である。

経営権については、ファミリーによる役員の就任状況および役員兼任の状況などの分析を行った。また所有権については、傘下企業のファミリーによる株式所有の状況などの分析を行った。また、それらに加え財閥傘下企業間の株式の所有状況等の分析も行った。

以上の分析の結果、今回取り上げたいくつかのパキスタン財閥の場合、傘下企業の役員にファミリーが名を連ね、また株式も所有している状況が明らかとなった。しかし、ファミリーの傘下企業一社あたりの株式所有割合はほとんど場合、少数であった。

また、ファミリーの後継者育成では、以前はファミリー内あるいはコミュニティ内で後継者の育成を行っていたが、しかし、現在ではファミリー内あるいはコミュニティ内での教育は稀で、アメリカやヨーロッパの高等教育機関で教育を受けさせている。それは多くのファミリーでみられる現象である。

それらについては関連学会等で発表し、また「ハビーブ財閥の形成と発展に関する一考察－ダーウッド・ハビーブ・グループの所有と経営の問題を中心として－」『社会科学』第 85 巻（同志社大学人文科学研究所、2009 年）、ならびに「アダムジー財閥の形成と発展過程に関する一考察」『同志社商学』第 61 巻第 6 号（同志社大学商学部、2010 年）として発表した。

ドバイについてもパキスタン同様に、財閥を取り上げ、ドバイにおける財閥の発展および傘下企業の特徴などの分析を行った。それについては「ドバイの経済発展と財閥に関する一考察―アルフテイム財閥を中心として―」『経済論集』第 22 巻 1 号（大阪学院大学経済学部、2008 年）として発表した。

現在、イスラーム関係の研究は多くの分野（経済、金融、文化、宗教、etc.）でなされている。しかし、イスラーム諸国に存在する財閥に焦点をあてて行う研究は、数えるほどしか存在しないであろう。今回「イスラーム諸国における財閥の形成・発展過程に関する一考察」をテーマに 3 年間にわたり研究を行ってきた。今回の研究は、イスラーム諸国に存在する財閥研究のスタートであり、研究課題が終了した後も継続し研究を行っていきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 川満　直樹、アダムジー財閥の形成と発展過程に関する一考察、同志社商学、査読無、第61巻第6号、2009、pp.262-279。

② 川満　直樹、ハビーブ財閥の形成と発展に関する一考察－ダーウッド・ハビーブ・グループの所有と経営の問題を中心として－、社会科学、査読有、第85号、2009、pp. 59-78。

③ 川満　直樹、ドバイ社会の変化に関する一考察－商品（特にランドマーク商品）が与える影響を中心として－、社会科学、査読有、第84号、2009、pp.17-32。

④ 川満　直樹、ドバイの経済発展と財閥に関する一考察－アルフテイム財閥を中心として－、経済論集、査読無、第 22 巻1号、2008、pp.1-29。

〔学会発表〕（計３件）

① 川満　直樹、パキスタン財閥の発展に関する一考察、南アジア研究会（関西）、2008年12月13日、於 エル大阪。

② 川満　直樹、人脈関係（ヒューマンネットワーク）からみるパキスタン財閥の発展、経営史学会第 44 回全国大会、2008年10月12日、於 立教大学。

③ 川満　直樹、ラホールと財閥、シンポジュームパーキスターン2007、日本パキスタン協会、2007年11月10日、於 日本大学文理学部。

６．研究組織

(1)研究代表者

川満　直樹（KAWAMITSU　NAOKI）

同志社大学・商学部・専任講師

研究者番号：１０３４０８４５

(2)研究分担者

無し

(3)連携研究者

無し